

頓珍漢素人俳壇

本学園の
学生・教職員の方々から
投句いただきました。

夏ツバメ あれやこれやと 夢さがし

多聞

取り替える 棚の書物は 夏の色

楽葉

図書館に 新刊匂ふ 梅雨の朝

四線

蛙鳴く 寝苦し夜こそ 書に耽る

障子

無い栞の 代わりに挟む ラベンダー

清水

梅雨晴れや 読書とともに 涼む夜

陸郎

霹靂^{へきれき}か 新聞揺らぐ 閲覧室

桜田

欲かいて ポイも金魚も ご破算に

粗品

混み合えど 自習日和な アイスコーヒー

湯島

蚊が覗く 文庫開けば 河原にて

雀宙

夏の名句

念力の

ゆるめば死ねる

大暑かな

村上鬼城

●俳句の説明

「心頭滅却すれば火もまた涼し」という諺がある。一説には、織田信長に焼き討ちされ焼死した甲斐国恵林寺の住僧快川の言葉と言われているが、それほどの暑さを耐え忍んでいる様子を表した句である。

夏の
図書館を
詠む

この句と説明は
本学の所蔵資料
から

鷹羽狩行 [述]

『ラジオ深夜便季語で

日本語を旅する：総集編』

NHKサービスセンター 2010

請求番号：911.304|Tak

本館 第一閲覧室